

くすりと健康のはなし

薬包紙

第98回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
職能対策委員
高橋竜也

紫外線の強い季節になってきました。この時季になると患者さんから「この薬を貼った（塗った）まま外に出て大丈夫ですか？」と聞かれることがしばしばあります。

お薬によってはまれに光線過敏症というものを起こしてしまうことがあります。光線過敏症とは、皮膚が日光（特にUVA）に対して過敏に反応してしまい、皮膚が赤くなってしまったり、腫れて水ぶくれができてしまったりする病気です。

特にステロイドの塗り薬が処方されたときに、この質問をされる場合があります。ステロイドの塗り薬で光線過敏症が起こったという報告はありません。ステロイドを塗った部分に黒いシミのようなものができてしまうことがあり、光線過敏症の症状と混同されてしまう一つの原因となっているかもしれません。これはステロイドの副作用ではなく、皮膚の炎症に伴う色素沈着です。ただし、ステロイドの塗り薬を使用しているかどうかにかかわらず、皮膚の状態によっては医師から日光を避けるよ

お薬を使ったところに紫外線が当たっても大丈夫？

うに指導されることがあります。

貼り薬の中には、貼付部位に直射日光を浴びるとまれに光線過敏症を起してしまうものもあります。そのような貼り薬を使っているときは、紫外線遮断効果の高い衣服やサポーターなどで貼付部位に紫外線が当たらないようにしましょう。また、貼り薬を中止した後もしばらくは使用部位に紫外線を当てないようにする必要がありますし、晴れた日だけではなく、曇りの日でも注意が必要です。

貼り薬を家族や友人から譲り受けて使用し、光線過敏症を発症した例が多く報告されていますので、自分に処方されたお薬を家族や友人に譲らないようにしてください。

光線過敏症はすべての貼り薬で起こるわけではありません。お薬が処方された際には薬剤師の説明をしっかりと受けましょう。自分の使っているお薬が光線過敏症を起す可能性のある薬かどうかわからない方や心配な方は、気軽に薬剤師にお尋ねください。